

【用語】高間伝兵衛—江戸の米商人中の最有力者で、享保十八年（一七三三）米価高騰の元凶として打ちこわしにあつてゐる。麻問屋株—麻問屋を営業する権利。名題—名代、名義、名目。仕切—取引の決算。仲買—生産者・荷主と問屋の間で売買の媒介をする人。売懸—後払いで商品を売った代金。吾妻原町—吾妻郡吾妻町。

【解説】上野国は山間地域が多く耕地が少ない。そのうえ耕地の七割が畑地のため、畑作農業や林産加工をおもな生業としていた。このため換金作物を栽培する農業が発展し、紙・煙草・麻などの特産物が生まれた。なかでも、吾妻地方の麻は沼田藩真田氏の奨励策などもあつて古い伝統をもっていたが、江戸時代中期には中之条町や原町などに産地荷主が生まれ、越中・越後などの麻織物産地や江戸へ出荷した。

この文書は江戸の高間伝兵衛所持の麻問屋株を那波屋・明石屋が譲り受け、本船町的那波屋十五郎の名義で麻問屋を開業するにあたり、原町の山口家と近辺の荷主衆へあてた取引きの依頼状で、今後の取引きに際しての代金支払い方法などの契約事項が記されている。なお、山口家は米穀問屋として東信濃の諸大名の払い米を扱うと同時に、吾妻麻の有力な荷主であり、同家に伝わる麻仕切状によれば、取引先は江戸や越中国が中心であつた。